

大学院学生の家計..... 62

修士課程は近親者の支援が基盤、博士課程では仕事と研究の両立が課題に
 修士課程では近親者からの支援が65.6%、博士課程では自分の仕事が56.4%

入学までのキャリア..... 63

修士課程へは学部から直接、専門職課程へは就業体験経由が多数
 修士課程へは80.7%が学部から直接進学。専門職課程では44.2%に留まる。

大学院の受験理由..... 64

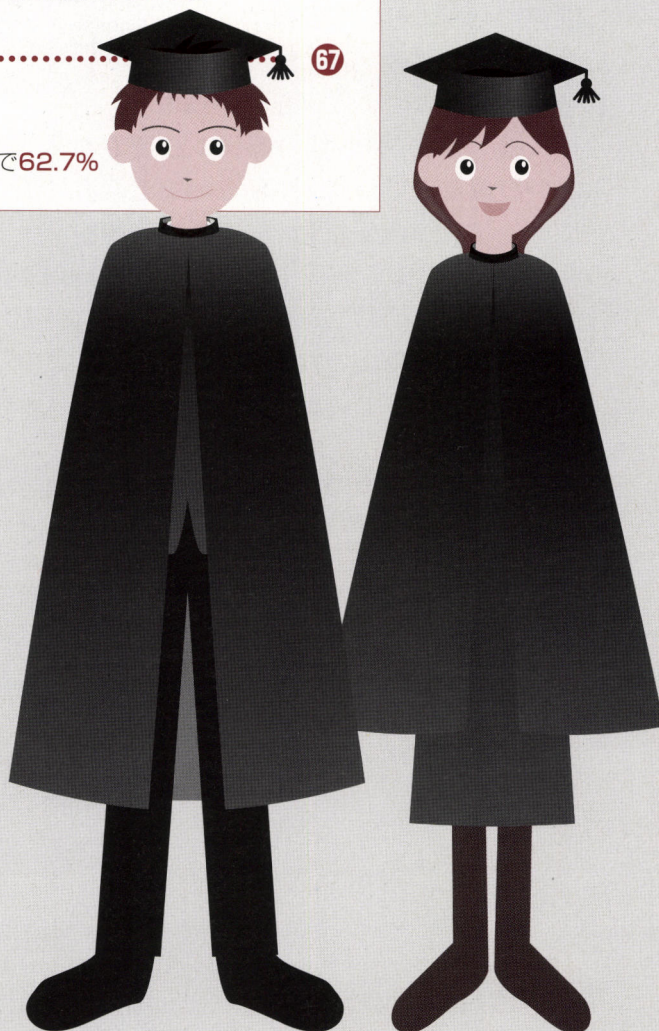
研究志向の修士課程、実学志向の専門職課程の差が顕著
 学問のさらなる探求が67%だが、就職の意志なしも18.3%に

早稲田を選んだ理由..... 66

専門分野と指導教員が選択の基準。一部研究科では不本意入学者も
 早稲田卒を基準にするのが41.2%、専門分野の合致も41.2%で、指導教員は35.5%

満足度..... 67

研究指導方法は満足度高いが、
 カリキュラム、設備には不満あり
 満足との回答が研究指導方法で77.4%、授業カリキュラムと設備で62.7%





修士課程は近親者の支援が基盤、 博士課程では仕事と研究の両立が課題に

大学院学生の家計

POINT

修士課程では近親者からの支援が**65.6%**、
博士課程では自分の仕事が**56.4%**

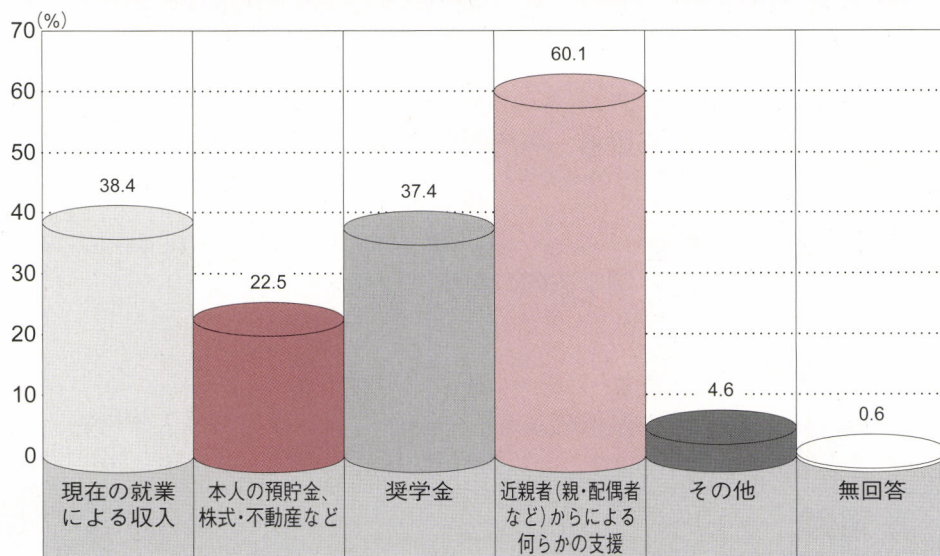
大学院学生の家計の基盤について尋ねたところ、全体としては「近親者（親・配偶者など）からの支援」が回答の6割に達しており、ついで「現在の就業による収入」と「奨学金」が4割近くになっています。学生個人だけで家計を支えることは相当困難な状況にあることが伺えます。

課程別でみると、修士課程学生は「近親者（親・配偶者など）からの支援」が65.6%と他の課程より10ポイント以上高い数値が出ており、生活基盤を近親者に依存している状況が顕著です。一方、博士課程学生は「現在の就業による収入」という回答が56.4%に達しており、半数以上が仕事か研究いずれかを片手間にせざるを得ない状況です。

と、ファイナンス研究科は「現在の就業による収入」が90.9%に達しており、専門職大学院としての専門性や独自性が示されています。また法務研究科では「現在の就業による収入」が15.3%に留まっており、司法試験に向けて勉強に専念している様子が伺えます。

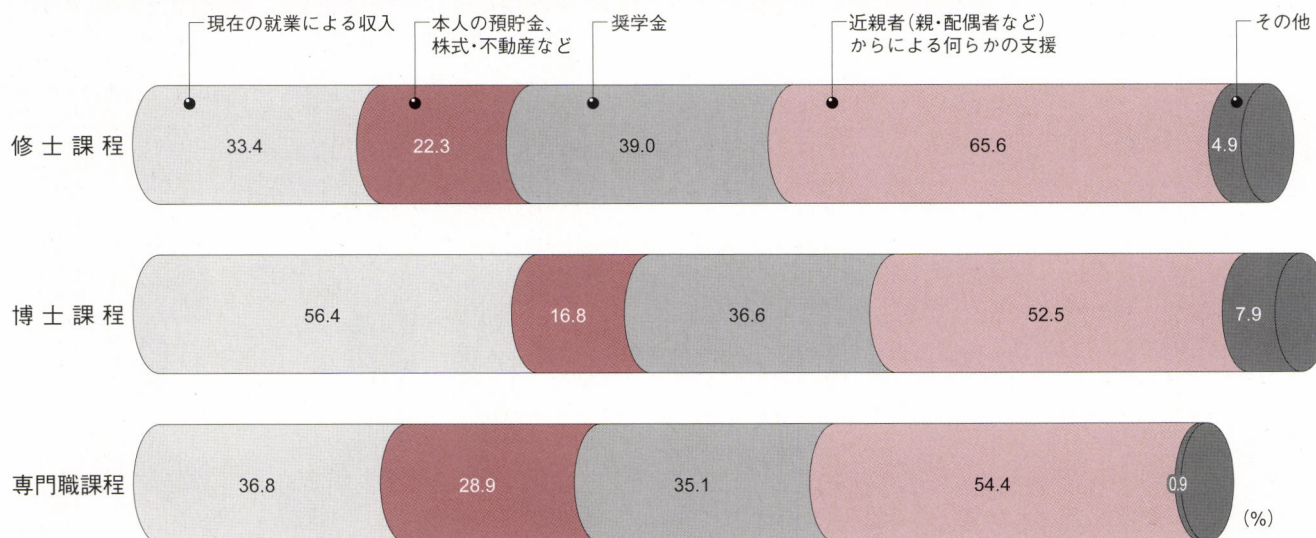
グラフには示していませんが、研究科別にみる

現在の生活の糧（金銭面）として該当するものは何ですか？ [複数回答可]



と、ファイナンス研究科は「現在の就業による収入」が90.9%に達しており、専門職大学院としての専門性や独自性が示されています。また法務研究科では「現在の就業による収入」が15.3%に留まっており、司法試験に向けて勉強に専念している様子が伺えます。

現在の生活の糧（金銭面）として該当するものは何ですか？ [複数回答可] 課程別





修士課程へは学部から直接、 専門職課程へは就業体験経由が多数

入学までの
キャリア

POINT

修士課程へは**80.7%**が学部から直接進学。
専門職課程では**44.2%**に留まる。

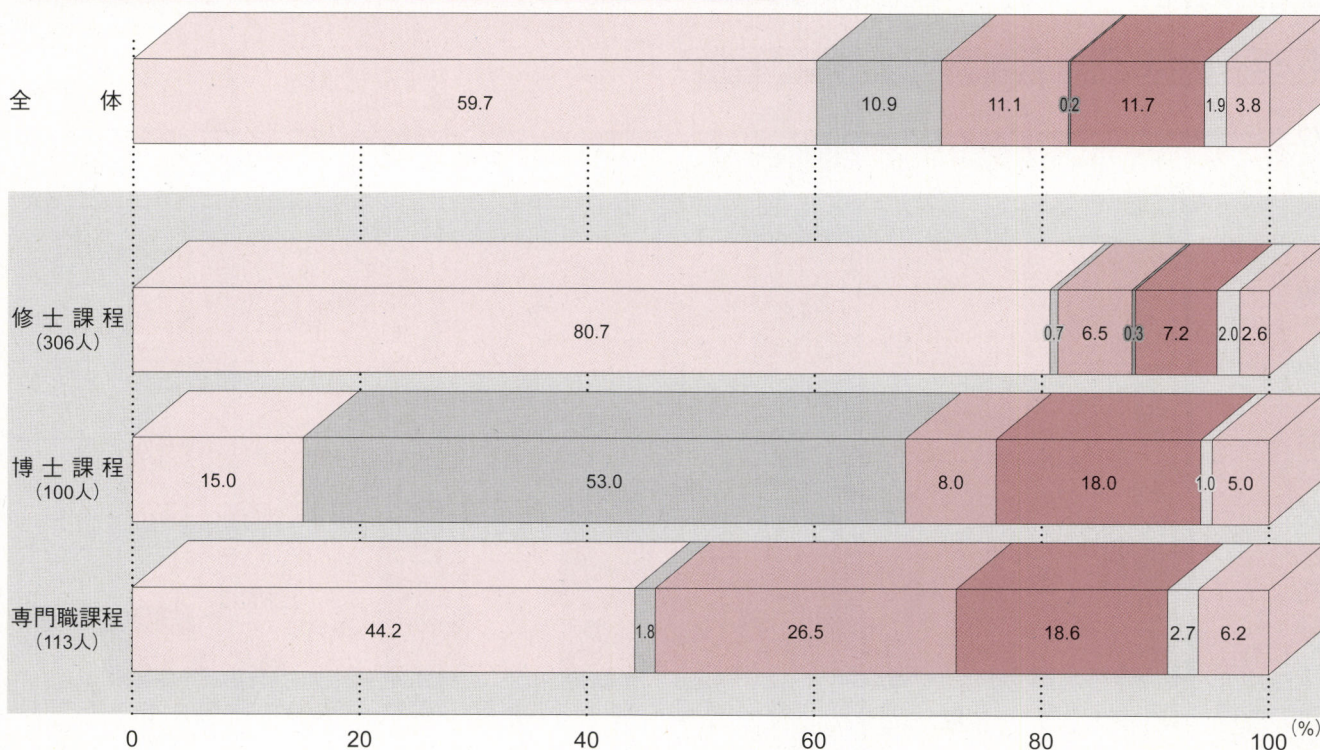
入学までのキャリアについて、課程別・研究科別にみると、修士課程学生は当然ながら「学部卒業後そのまま入学」が80.7%と8割以上になっています。特に理工学研究科および新設の基幹・創造・先進の各理工学研究科の場合、9割前後の入学者はそのまま学部から進学しています。それに対して日本語教育研究科は、「学部卒業後そのまま入学」が14.3%に留まり、「入学前に就いていた仕事を退職した上で入学」が57.1%に達しているという特徴を示していました。これは一度職業体験を積んだ上で、職業上の専門性を高め、キャリアアップを図るという独立大学院の特質を帯びていることを示唆しています。

博士課程学生は「大学院修了後そのまま入学」

が53.0%と半数を占め、さらに「入学前に就いていた仕事を退職した上で入学」が18.0%となっており、金銭的問題と研究活動との両立の困難さを示唆しています。

一方専門職課程学生は「学部卒業後そのまま入学」が44.2%に留まり、「入学前に就いていた仕事を退職した上で入学」が18.6%となっており、やはり社会体験を一定程度経由した上で専門職課程の大学院に進学している学生が多いことを示唆しています。特にファイナンス研究科は「学部卒業後そのまま入学」が4.5%に留まっており、職業体験の必要性・重要性が顕著に現れているようです。

入学までのキャリアについて該当するものを選択してください。



☐ 学部卒業後そのまま入学
 ☐ 大学院修了後そのまま入学
 ☐ 入学前に就いていた仕事を続けたまま入学
☐ 転職と同時に入学
 ☐ 入学前に就いていた仕事を退職した上で入学
 ☐ 定年退職後に入学
☐ 入学前に就いていた仕事を休職して入学
 ☐ その他



研究志向の修士課程、 実学志向の専門職課程の差が顕著

大学院の受験理由

POINT

学問のさらなる探求が**67%**だが、
就職の意志なしも**18.3%**に

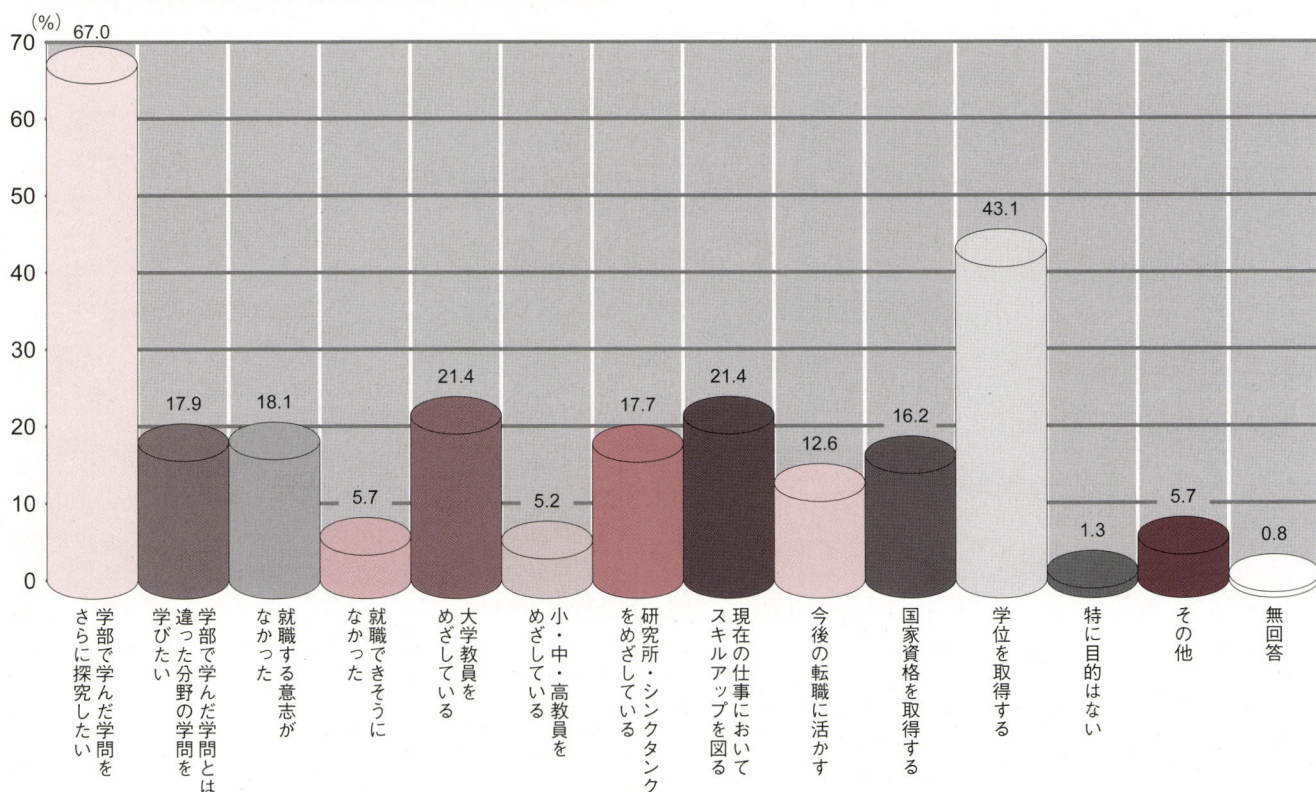
大学院に進学しようと考えた理由については、全体として「学部で学んだ学問をさらに探求したい」という回答が67.0%と突出しており、さらに「学位を取得する」という回答も43.1%に達しています。

個別に傾向を見てみると、専門職課程で「学部で学んだ学問をさらに探求したい」という回答は34.5%に留まる一方、「国家資格を取得する」が61.1%に、「現在の仕事においてスキルアップを図る」も31.9%に達しています。専門職課程では学問そのものの探求よりも、今後の職業選択やそのための資格取得に特化した教育課程が提供され、またそれを目指して学生が集まっているという特徴が顕著に見られます。当然ながら、法務研究科と会計研究科はいずれもほぼすべての回答者が「国家資格を取得する」と回答しています。

それに対して、修士課程では「学部で学んだ学問をさらに探求したい」という回答が79.0%に達しており、主たる目的が学問研究となっているところが特徴といえそうです。一方で、「就職する意志がなかった」(22.0%)、「就職できそうになかった」(7.9%)という回答も専門職課程の学生と比較して有意に多くなっており、キャリア開発という視点で修士課程を再度見直していく必要性も示されているようです。

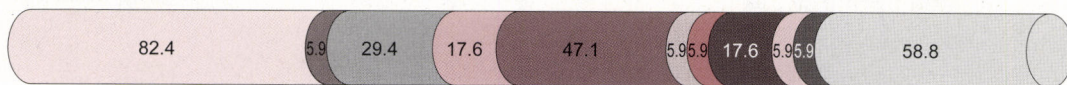
なお、博士課程の学生は「大学教員をめざしている」が62.4%、「研究所、シンクタンクをめざしている」が37.6%と、他の課程と比較しても突出して多くなっています。修士課程から博士課程への進学にあたり、相当な覚悟が依然として必要であることが伺われます。

大学院を受験した理由は何ですか？ [複数回答可]

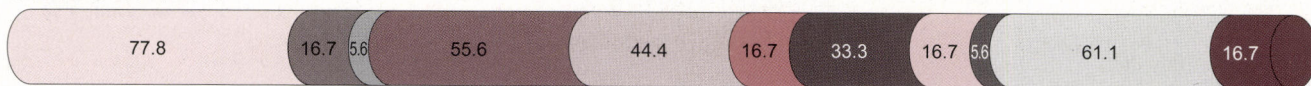


大学院を受験した理由は何ですか？ [複数回答可] 所属箇所別 一部抜粋 * 回答の多い主な研究科・主な項目

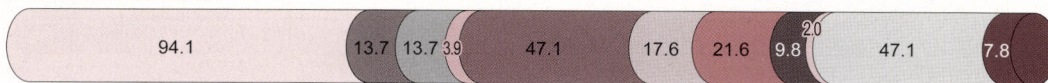
法学研究科 (48人)



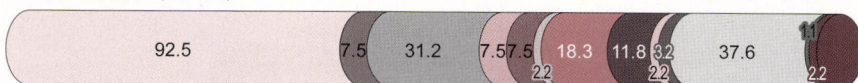
教育学研究科 (63人)



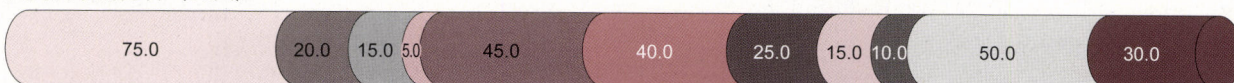
文学研究科 (142人)



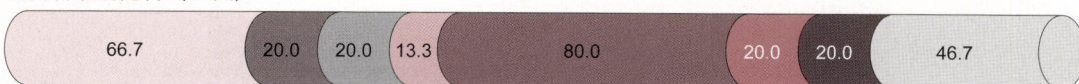
理工学研究科 (209人)



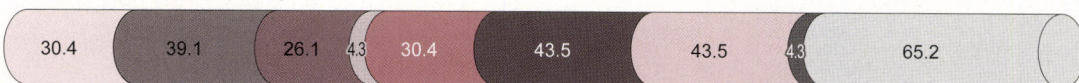
人間科学研究科 (66人)



社会科学研究科 (43人)



アジア太平洋研究科 (66人)



国際情報通信研究科 (44人)



日本語教育研究科 (47人)



情報生産システム研究科 (111人)



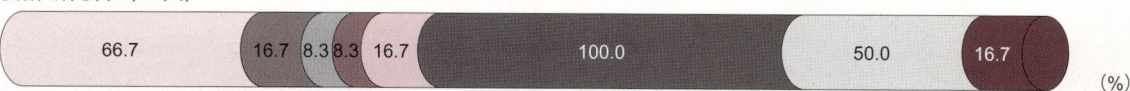
ファイナンス研究科 (53人)



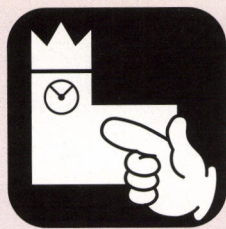
法務研究科 (107人)



会計研究科 (34人)



- | | |
|---------------------|---------------------------|
| □ 学部で学んだ学問をさらに探究したい | ■ 学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい |
| ■ 就職する意志がなかった | ■ 就職できそうになかった |
| ■ 大学教員をめざしている | ■ 小・中・高教員をめざしている |
| ■ 研究所・シンクタンクをめざしている | ■ 現在の仕事においてスキルアップを図る |
| ■ 今後の転職に活かす | ■ 国家資格を取得する |
| ■ 学位を取得する | ■ 特に目的はない |
| ■ その他 | |



専門分野と指導教員が選択の基準。 一部研究科では不本意入学者も

早稲田を
選んだ理由

POINT

早稲田卒を基準にするのが**41.2%**、
専門分野の合致も**41.2%**で、指導教員は**35.5%**

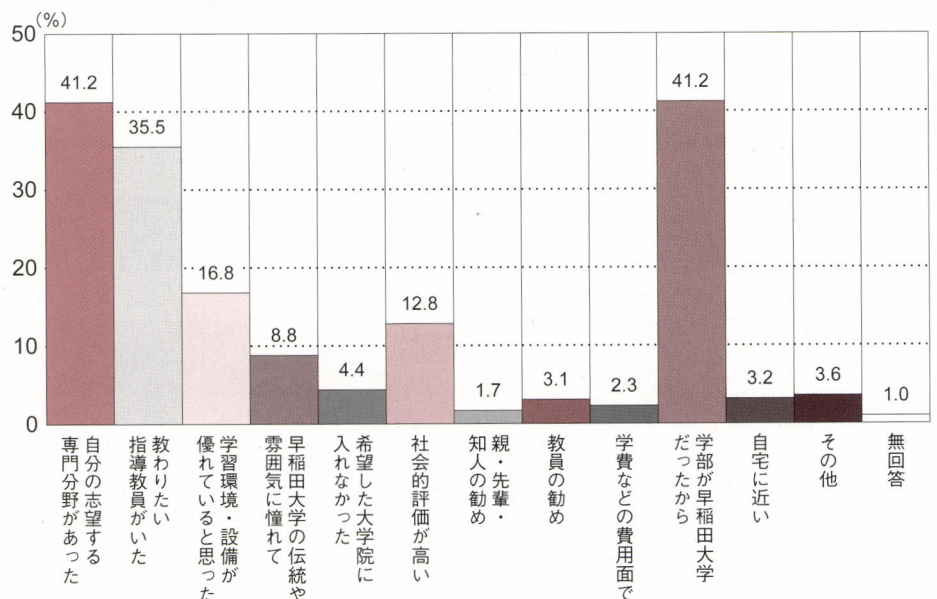
大学院進学にあたって早稲田大学を選択した理由としては、「自分の志望する専門分野があった」と「学部が早稲田大学だったから」が41.2%、「教わりたい指導教員がいた」が35.5%と回答者の割合が高くなっており、その他の項目はいずれも2割未満となっています。

課程別に見ていくと、修士課程は「学部が早稲田大学だったから」が50.5%と特に高くなっており、学部の延長上に修士課程が存在していると理解されているよう

です。博士課程では「教わりたい指導教員がいた」が51.0%に達しており、特に高度な研究を受けることを考える場合には、組織（大学）以上に人（教員）が重要になっているようです。

専門職課程の場合、「学習環境、設備が優れていると思った」が26.5%と他の課程よりも有意に高くなっており、早稲田というネームバリューが効いているのかもしれません。

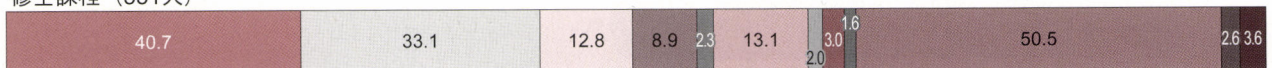
大学院進学にあたり、早稲田大学を選んだ理由は何ですか？ [複数回答可]



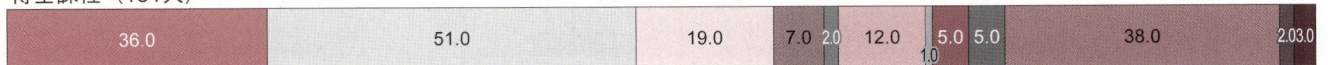
ただし、「希望した大学院に入れなかった」という回答が法務研究科のみ22.4%と高い数字を示していました。その他の専門職課程では不本意入学者はほぼ存在しないようですが、修士課程・博士課程の研究科では不本意入学を示唆する回答が5%近くに達するところもあるようです。こうした学生に対してどのようなケアが可能であるのか、慎重に検討していく必要があります。

大学院進学にあたり、早稲田大学を選んだ理由は何ですか？ [複数回答可] 課程別

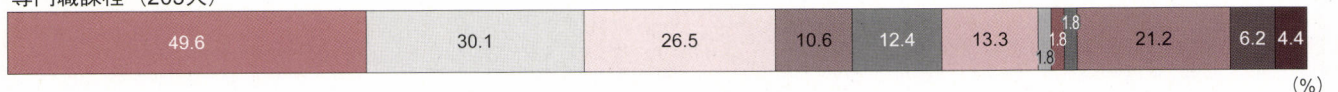
修士課程 (531人)



博士課程 (181人)



専門職課程 (203人)



■ 自分の志望する専門分野があった
 ■ 教わりたい指導教員がいた
 ■ 学習環境・設備が優れていると思った
 ■ 早稲田大学の伝統や雰囲気に憧れて

■ 希望した大学院に入れなかった
 ■ 社会的評価が高い
 ■ 親・先輩・知人の勧め
 ■ 教員の勧め

■ 学費などの費用面で
 ■ 自宅に近い
 ■ その他



研究指導方法は満足度高いが、カリキュラム、設備には不満あり

満足度

POINT

満足との回答が研究指導方法で**77.4%**、
授業カリキュラムと設備で**62.7%**

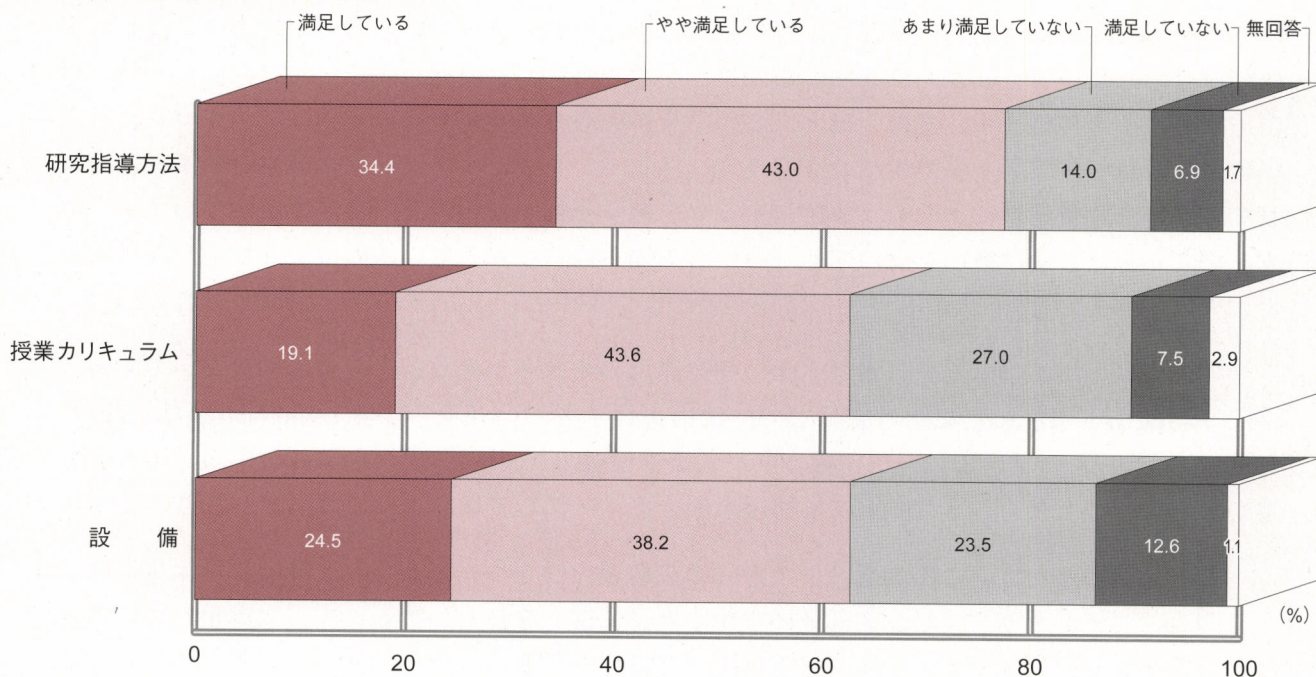
研究指導方法、授業カリキュラム、設備について満足度を4段階で尋ねてみました。それぞれ下記グラフのような結果となり、全体としては満足度が高いものの、特に設備については不満という回答が多くなっており、授業カリキュラムもあまり満足度が高くない様子が伺われます。

研究指導方法と授業カリキュラムについては、いずれも満足度が高いか、いずれも低いかに分か

れるといった傾向が見られます。なお、課程別ではほとんど違いが見られませんでした。

大学改革の中で従来以上に大学院のあり方が問われてきています。この満足度のデータだけでなく本アンケートの自由記述欄も参考にしながら、各研究科で課題を明らかにし、対応策を検討していく必要があるのかもしれません。

満足度（大学院）



コラム

早稲田大学は創立125周年を迎えるにあたり「独創的な先端研究への挑戦」、「全学の生涯学習機関化」、「地球市民の育成」の三つの目標を掲げています。現代社会のニーズに応えるべく大学院教育を目指した改革では、大学院・学部における社会人受入の入試やカリキュラムの充実も図っており、本年度4月には「文学研究科」の再編、新たに「環境・エネルギー研究科」、「基幹理工学研究科」、「創造理工学研究科」、「先進理工学研究科」が誕生しています。

また、社会人の学部や大学院での教育にも積極的に取り組み、多くのカリキュラムを用意してきました。大学院では、社会人の経験を生かせる授業や演習も組まれています。